



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



第 77 回国際連合総会
一般演説原稿案

ルイス・アルベルト・アルセ・カタコラ大統領

ニューヨークにて、2022 年 9 月 20 日

- 我が兄 国際連合 総会議長 チャバ・コロシ 殿
- 我が兄 国連事務総長 アントニオ・グテーレス 殿
- 我が兄弟姉妹 ご列席の国家首脳、外務大臣、国家代表の皆様

まずは、我が兄 チャバ・コロシ 殿、貴殿の国連総会議長ご就任をお慶び申し上げますとともに、ボリビア多民族国を代表して、国際社会全体の利益のために貴殿が遂行する業務への協力を表明いたします。このたびの第 77 回国連総会が、人類に対する新旧の脅威に対して、より効果的に対抗できるように、我々が引き続き多国間主義を強化できる機会となることを願っています。

我が兄 総会議長 殿

今日、我々は、地球と人類の生命をますます脅かす、多重かつ体系的な資本主義の危機に直面しています。我々が直面する課題は、日々複雑化していることは間違いありません。現在さらに将来の世代のためにより良い未来を望むなら、経済の危機、さらに社会、食糧、気候、エネルギー、水、貿易の危機について熟考するだけでなく、その危機の原因を明確にし、大多数の支配と搾取と排除を生み出し、少数の手



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



に富を集中させ、生命の生産と再生産よりも資本の生産と再生産を優先するシステムそのものを変えなければなりません。

しかしながら、資本主義の多重的・体系的危機とともに、我々は今、一極集中型の世界の終焉をも観察することができます。願わくは世界のすべての国家と人民の利益となるような、新しい世界秩序の構築は、必然的なものであると言わなければなりません。

そこで、「もうひとつの世界は可能である」ことを確信し、ボリビア多民族国から、以下のとおり提案申し上げるものとします。

1. 世界を平和地帯として宣言すること。

以上を鑑みて、我々は、人類を苦しめている数多い武力紛争に懸念を表明いたします。その多くは、戦争で利益を得る多国籍企業によって推進されるものではありませんが、同時に、資本主義の利益のためにのみ機能するような政治的・経済的世界秩序を推し進めようとする欲によっても促進されています。これらの紛争は大きな人的犠牲を伴い、多くの場合、我々の文化遺産や環境遺産をも破壊しています。

国際的な緊張の起源、性質、地政学的理由にかかわらず、ボリビア多民族国は、人民の外交による国家間の対話の文化をこれまで支持し、これからも支持するものでありますが、しかし残念ながら、力の均衡を保つ多極世界の存在を認めようとしない資本主義勢力の強気一辺倒によって、多国間体制の劣化が進んでいることを我々は観察すること



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



ができます。多国間主義こそ、経済力や軍事力に関わらず、国家間の尊重を保証する唯一のメカニズムであります。したがって、国際的な平和と安全に対するいかなる侵害も、国際連合憲章に規定されたメカニズムの不十分な適用、または、その明白な違反に関連したものと我々は考えなければなりません。

ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）を構成する国々は、我々の領地を「平和地帯」と宣言し、我々の間に発生するいかなる紛争も平和的に解決し、この地域での武力行使を永久に追放することを約束いたしました。以上の観点から、我々はこの総会を歴史的な合意の場とすることを提唱します。それはすなわち、あらゆる紛争に対して対話と外交が優先され、世界を「平和地帯」と宣言されるための合意であります。

その目標を達成するために我々は、ロシアとウクライナの停戦実現のためにも、またパレスチナの国家と人々の歴史的権利が尊重されるためにも、また北大西洋条約機構（NATO）が己の拡張計画のみを考えるのを止めるためにも、国際連合が絶え間なく精力的に働きかけることが極めて重要であります。

- 2. 大量破壊兵器の製造を、全世界の貧困層への公正な補償に置き換えること。**



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



まさに対話不足と予防外交の欠如こそが、世界規模の大きな緊張と世界の安全保障に不確実性と不安定性が増大する時代へと我々を導いています。さらに、多数の大量破壊兵器が少数の国に集中し、それらの国は自国の地政学的な利益を優先して兵器を排除しようとしなないことにより、地球の平和と安全を危険にさらす時代に我々は生きているのです。

現在、9カ国が12,705発の核弾頭を保有し、そのうちの9,440発は軍事備蓄として、いつでも使用可能な状態になっています。

世界が直面している以上の劇的な現実に対して、大量破壊兵器製造のための軍事費を、資本主義の中央の国々が道徳的、歴史的に世界の周辺の国々や貧しい人々に対して負っている公正な経済的補償に置き換えるという旗印を掲げることが必要であります。

3. 医療の商品化に反対し、万民のための一般的な医療制度。

我が兄 総会議長 殿

この二年間、我々の人民は、紛争による不確実性だけでなく、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による深刻な医療危機にも直面し、その結果として世界中で医療システム、さらには金融システムや世界経済の脆弱性と不平等を露呈することになったのです。

民間保険に加入できる人だけが優遇される医療システムや、医療を商



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



品に変えてしまった人たちを前に、経済的・社会的・文化的人権の優先という枠組みの中で、国家が集団的権利を保護・保障する義務を果たし、それによって世界経済の危機が国民の中で最も弱い層の人々に及ぼす影響を軽減するような万民のための一般的な医療制度の強化が急務となっているのです。

4. 母なる大地と調和した食料主権のための世界プログラム。

資本主義の構造的かつ複合的な危機のもう一つの現れは食糧危機であります。これはパンデミックの影響によって悪化し、グローバルな地政学的紛争と地球が直面している複数の生態系の危機によって拍車がかかり、この状況は持続可能な開発の目標の達成に影響するだけでなく、数百万の人間の最も基本的な権利をも脅かしています。

「世界の食料安全保障と栄養の現状 (SOFI) 」2022 年版報告書によれば、近年、世界の飢餓人口が急激に増加しています。2021 年だけでも、合計 8 億 2800 万人がこの被害の犠牲になっており、これは世界人口の 9.8%に相当する数字です。

アジアでは 4 億 2,500 万人、アフリカでは 2 億 7,800 万人が被害を受け、未だにこれらの地域が地球でこの危機の最も大きな影響を受けており、ラテンアメリカ・カリブ海諸国では 5,600 万人以上が被害を受けています。



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



食糧危機に直面している今、我々は小規模生産者により良い生産条件を保証するような食料主権のための世界プログラムを早急に優先して進める必要があります。それはつまり、種子、肥料、技術、インフラ、出資、その他民間および共同の様々な形態での市場へのアクセスを指しているものではありませんが、それと同時に、母なる大地と完全に調和したそれぞれのコミュニティでの生活条件の改善をも意味しています。

5. 抑えがたい資本集中の論理によって打撃を受けた周辺国の生産力と経済力を再構築すること。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックによる影響により、経済や貿易交流が悪化したことに加え、今日我々は、インフレの持続的拡大路線に直面しており、それが大きな問題の一つとなっています。例えば、2022年8月には、アメリカ合衆国では過去40年間で最高の前年比インフレ率 8.25%、ユーロ圏で未曾有の 9.1%を記録しました。これに加えて、ロシアとウクライナの戦争により、エネルギー、食料、肥料、原材料などの価格に対する圧力が深まったため、2022年7月には、一部の欧州諸国とアメリカ合衆国では、前年比の食料インフレ率が2桁以上上昇してしまいました。

相互に密接に結びついた世界において、経済やあらゆる産業、各国の生産力・自立力への多面的な影響に対処できるよう、国家間の連帯と相互補完の関係、民族の自決の尊重といった諸原則のもと、統合と協



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



力の関係を強化し、パンデミック後の状況における我々の人民のニーズに対応することが重要な課題であります。

したがって、我々途上国が包括的かつ持続可能な経済・社会開発の観点から主権的な社会政策を実施するためのスペースを確保するために、世界規模で対外債務救済のためのグローバル金融体制を再構築することが不可欠であります。そして、南の国々から常に叫ばれて来たことではありますが、現在も北だけが利益を得続けている貿易条件のバランスをはかる必要があるのです。

この点については、まことに恐縮ではありますが、ボリビアの経験を共有することをどうかお許しください。

2020年に民主主義を回復した後、人民の団結と闘争と良心のおかげで、我々は民主主義的・文化的革命の道、尊厳と主権が指し示す道へと戻って参りました。

我々は、我が多民族国家の建設を再開しつつ、自国の社会共同体生産的経済モデルの再統合にも着手いたしました。それは、国際通貨基金（IMF）から押しつけられるいかなる課税をこれまでも、今後も受け入れない主権的な経済モデルであります。

我々の経済モデルは、我が国の政治的、経済的、社会的、文化的現実に対応したものであるとともに、以下を基本としています。すなわち、経済における国家の積極的役割と、戦略的な天然資源の国有化、あら



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



ゆる形態の経済組織の連結、公共投資の強化、輸入代替による工業化、国内市場の活性化、生産の多様化、食料主権による保障、所得の再分配、貧困と不平等との闘いに基づいた経済モデルであります。つまり、社会的公正を伴う経済成長であって、我が国家の先住民のルーツから生まれ出る「よく生きる」という文明的な政治的地平線の下にあるものです。

こうした責任ある主権国としての政策により、所得の再分配を伴う安定と経済成長の道へと戻ることが可能となったのです。2022 年度第一の四半期の経済活動としては、内需に牽引され 4%という成長率を記録いたしました。

8 月の時点の自国のインフレ率は 1.6%で、直近の 12 ヶ月を通じて既に 2 桁を超えている複数の国のインフレ率に比べると、我が国は地域で最も低く、世界でも最も低いインフレ率の経済のひとつであると言わなければなりません。

社会の側面としては、2022 年度第二の四半期にボリビアは 4.5%と地域で最も低い失業率を記録いたしました。他の国が失業率のさらなる増加に苦しむなか、国際連合ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (ECLAC) などの国際機関はボリビアが 2022 年に最も貧困を削減する国として認定されました。



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



しかしながら、自国もまた、他の多くの周辺諸国と同様に、我々を取り巻く多次元的かつ体制的な危機に関連した諸問題を解決するために、我々は未だに大きな努力を続けており、これら諸問題により回復はますます困難になってきているのです。

悲しいことに、中央資本主義の国々が戦争のために巨額の資金を費やす一方で、他方では、一貫した持続可能な開発、脱植民地化と脱家父長制化、貧困と経済・社会的不平等の撲滅のための出資がほとんど行われていないことを、我々は遺憾に思うのです。例えば、一例にすぎませんが、ここ数カ月間で東欧の紛争に費やされた資金は、この10年間で緑の気候基金（GCF）に投資された資金の20倍にもものぼるのです。

平和は、武器の売買によって達成されるものではなく、すべての国の経済的、生産的能力を構築し、必要であれば再構築するために協力することによって達成されるべきものであると言わなければなりません。

6. 気候の危機は、責任、連帯、人間と自然との調和を必要とし、 不当な暴利貸しのようなものであってはなりません。

人類と母なる地球の完全性を脅かすもう一つの危機は、気候の危機ですが、これはもはや気候の危機から生態系の崩壊へと移行しつつあります。これまでに観測され、今後予測される絶望的な排出量削減のレベル状況を見る限り、生産と消費のありかたを変える手段を有する国々がそれを変える政治的意志が皆無であり、そしてむしろ野心



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



的な目標を掲げた我々は、パリ協定で約定された、目標を達成するための実行手段が提供されて来なかったことが示されました。

さらに、温室効果ガス排出の第一義的責任国は、先進国の歴史的責任を無視し、最先端のクリーンテクノロジーへのアクセスがますます不可能になっている途上国の能力と限界をも考慮することなく、すべての国が2050年までに「脱炭素化」という幻想を追い求めるよう要求しているのです。

おそらく、気候変動の歴史的な債務国は、我々全員がとにかく将来のことだけを心配し、途上国に対する資金、技術移転、能力開発に関して達成されて来なかった多くの約束について、現在それを議論することを避けたかったことでしょう。

最近、パキスタンで洪水が発生しました。我々はパキスタンの人民に連帯を表明いたします。何世紀にもわたる資本主義の「誤った開発」によって引き起こされた実際の損失と損害と、それに伴う高い人的・物的コストを、これらの洪水は明確に示す具体的な例となるでしょう。今日、生産力が高度に発達した国々によってもたらされた、気候危機が及ぼす損失や損害に対処するために、暴利ではなく連帯に基づく具体的な金融メカニズムが必要であることは、今こそかつてないほど明らかであります。

我々は、富と所得を少数の人々の手に集中させ続けたならば、低排出



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



で気候変動に強い未来は実現し得ないと確信しています。したがって、気候危機を逆転させるためには、資本主義モデルが引き起こす経済的、社会的、政治的矛盾、さらに人間と自然の間に存在する矛盾を解決する必要があります。

7. リチウムの産業化こそ、人民の利益と、エネルギー転換の基本的な柱となるべきものです。

ここで、戦略的な天然資源について言及したいと思います。我が国は世界最大のリチウム埋蔵量を誇っており、我々はその産業化のための行動を実施する際には、その使用が人類の利益のために役立つことを保証し、ガスが低排出される未来への地球規模の公正な移行の手段となるとともに、母なる地球の尊重のための基本的な柱となることを自覚しつつ、我々は大きな責任を持ってこれを引き受けます。

我々は、自国のリチウム埋蔵量が、植民地主義・資本主義的發展の下で、少数の富を増やし、民衆を飢えさせるためだけに使われた他の天然資源の轍を踏まないようにしたいのです。

この意味で、我々は、リチウムのような天然資源に対する主権を主張しつつ、その産業化、もっぱら多国籍企業や小さな特権集団ではなくすべての人々の福祉を指向した利益となるよう、そして特に低所得者層に再分配するための経済余剰の主権的帰属を主張するものであります。



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



また、リチウムを制御する目的で、我が国の民主主義を不安定にするいかなる干渉や試みをも拒否します。

二か月前のアメリカ南方軍司令官の発言によれば、ボリビア、アルゼンチン、チリからなる南米のいわゆる「リチウム・トライアングル」をアメリカ合衆国が視野に入れているとのことでした。国際連合は、国家の主権と不干渉原則を尊重せず、戦略的天然資源の支配をめぐつて民族を対立させるいかなる国家に対しても必要な措置を講じて行動を起こす必要があります。我々はチェスの駒ではありません。我々は日々、前進するために懸命に働く人々であり、我々の天然資源について自己決定するあらゆる権利をも有しているのです。

8. 麻薬密売撲滅のための戦い、国有化から地域化へ。

我々は麻薬密売との戦いに対するアプローチを変える必要があります。これまでは需要よりも供給を重視し続けたことは、軍事化や国際的な麻薬戦争への展開のための口実となっただけであります。その結果として、南部の農民は影響を受ける一方で、他方では国民があらゆる種類の麻薬を大量に消費している国々では、公に特定されることのない大規模な犯罪グループが全く処罰されないままとなっているのです。いわゆる「国際的な麻薬戦争」は、南の国々を犯罪者として定めつつ、一方的な制裁を生み出しますが、マネーロンダリングを盾に、北の国々での麻薬密売やその他の関連犯罪を助長してしまうものとなっているのです。今後はこれが許されるわけにはいきません。



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



ボリビアは、麻薬密売との戦いにおいて肯定的な結果が得られており、自国のモデルを擁護するとともに、ペルーとコロンビア、そして麻薬の密輸の影響を受ける他の国々とも協力し、軍事的でなく、より経済的、社会的な包括的アプローチの下で麻薬密売との戦いを「地域化」して協力すべき時期に来ていると我々は考えています。そして、国際連合は、これからは南の国だけでなく、加盟国の一国が一方的に麻薬撲滅のための戦いを「認定」している北の国についても、得られた成果を評価できるような仕組みに取り組むべきであります。

9. 沿岸を有しない内陸国への優遇措置のための国際的なメカニズムを強化すること。

さらに、我々地中国または内陸国は、海へのアクセスや海洋資源の利用に関して深刻な問題に直面しており、海洋が各国、特に発展途上国の開発にとって大きな潜在力を持つ空間であることを特に念頭に置いて考えるならば、国際法関係における現在の主要な問題の一つである「国際海洋法」についても、ここで注意を喚起したいと思います。

海洋法条約にも記述されるように、すべての国は海洋空間と海洋資源にアクセスし、これを利用する権利を有しているのです。海洋資源という富は全世界の人々の未来にとって決定的な役割を果たすものであり、海洋資源に関して、その権利と責任の公正な配分を確保すべきであります。海とは万人の権利であって、そのため、何人も自己の発展



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



において、海洋の享受と利用の機会を奪われることがあってはなりません。

同様に、世界にある不平等と不正を是正するための原則として、衡平性、非差別、国際連帯、社会正義にこそ我々が導かれるべきであって、さらに海岸線を有しないために海洋資源の利用において深刻な地理的不利を抱える国々に対しては、優遇措置の国際メカニズムを強化することが重要であると我々は考えます。

沿岸を有しない内陸国は二重の意味で不利益を被っています。すなわち、一方では製品の輸入コストが高くなり、他方では自国の発展が阻害されることが実証されているのです。

この点について、私は国際社会に、我が国ボリビアは元来、海を有する国として生まれたのですが、現在は内陸国であって、過去の事情により、輸送、通信、貿易に際しては数多くの障壁に直面することを余儀なくされていることを、ここで記憶させるべきことでしょう。一日も早く、対話と外交が勝利し、資本主義的利害関係によって引き起こされた戦争の不正義が修繕され、その結果として、兄弟姉妹なる人民の間でより良い未来を築くことが可能となるように願っています。

10. 人権と民主主義に対する、我々の狭い視野の拡大。



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



民主主義と人権は、切っても切れない姉妹関係にあることは間違いありません。ボリビア多民族国は、民主主義が崩壊すれば、人権行使の基盤も崩れることを、身をもって体験しました。

だからこそ、我々は、社会の最も弱い人々を擁護するために組織機構が決定し遂行する行動に対して、確固たる連帯を表明いたします。ボリビアは、多民族性を国家の組織的な構造として、自国を再構築することを決定いたしました。それはすなわち、三十六の先住民族が我々の国家を構成することを意味しています。

我々、ボリビア人の男女が自覚しているように、自己の多様なアイデンティティに誇りを持つ民族こそ、多文化共生を基礎として、より良い国を築くことができるものです。歴史的な分析を通じて、それは非常に短期間で実現できたことであり、我々の課題とは、この変革が「すべての人のための『良く生きる (Vivir Bien) 』」を達成できるところにまで、これを継続させることにあるのです。

我々は、人権の基準と、人権と民主主義との関係について、理解をさらに広める必要があります。なぜなら、大多数の経済的、社会的、文化的権利が実質的に行使されないことを犠牲にして、ごく少数の特権が維持されるときには、人権も民主主義も存在し得ないからです。

11. 世代間の連帯。



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



一方で、活気に満ちた生産的な今の世代は、我々の家の基礎と土台を築いた人々に対して連帯しなければならないことも、我々は確信しています。現在の世代間の公平性を確保しない限り、将来の世代との公平性を確保することはできません。我々は、多国間において、高齢者が我々の国で築き上げて来たすべての功績を考慮することなく、将来の世代にのみ偏って強調した態度がとられることを懸念しています。我々は、これらの方々を保護するための普遍的条約・協定が未だに存在しないことを懸念しているのです。すべての人々の家であるこの場で、この議題が深く熟考されることを期待しています。

12. 女性と女兒に対するあらゆる形態の暴力と闘うために、脱家父長制化の十年間を宣言すること。

同様に、世界規模で我々に警鐘を鳴らしている問題に注目したいと思います。それは、女性や少女、特に先住民の女性や少女と、貧困にあえぐ女性や少女に対する暴力が後を絶たないという問題です。

パンデミックと資本主義の構造的危機によって、農村部や都市部の人々、特に女性の生活環境を悪化しています。

女性たちは、複雑で交差する形態の暴力に今も直面し続けています。国連女性機関（UNWomen）及び国連経済社会局（UNDESA）が「持続可能な開発目標（SDGs）5」を構成する9つの目標に関する年次調査を報告している「ジェンダーの状況に関するレポート」で以下のように指摘



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



している通りであります。すなわち、『男女差別は、長い間、職場、政治、家庭において、女性や少女を男性に従属する地位に追いやってきました[...]現在の変化のスピードを鑑みても、女性に対する暴力を禁止する普遍的な法律が設定されるまでに後 21 年、そして法的枠組みとして男女平等が実現されるまでに後 286 年という途方もない時間がかかると、本報告書は推定します。』

このレポートではさらに、貧困減少の後退が懸念されるとともに、さらなる物価上昇によりこの傾向がさらに悪化する可能性があるとは指摘しています。2022 年末までに、約 3 億 8,300 万人の女性と少女が極度の貧困状態に置かれると推定されます。そして、世界のほとんどの地域で女性たちは、衣食住の基本的ニーズを満たすのに十分な収入が得られない状況に置かれているのです。

我がボリビア多民族国では、2022 年を「脱家父長制化のための文化革命の年：女性に対する暴力のない生活のために」と宣言いたしました。我々はさらに、法制度の枠組みを強化するだけでなく、暴力の構造的な原因を打開することを目的とした政策を推進しています。それは、教育から出発して、女性の経済的自立を強化し、さらに文化的プロセスを通じて、最古の抑圧システムである家父長制に由来し、植民地主義と資本主義によって触発されてきた、不幸な現状を変革するための政策を推進しているのです。



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



我々は、この総会で「脱家父長制化の十年間」が宣言されることを提案します。我々が脱家父長制化について語るのは、すべての人類と母なる地球のために、あらゆる形態の排除、支配、搾取、差別、暴力のない自由な生活のために構築される相互関係を志向し、共同の視点から政治、経済、社会、文化の深い変革のプロセスを求めることが急を要する差し迫った状況に我々がいるからです。

13. 片務的な制裁を拒否すること。

まことに、危機とパンデミックに見舞われた世界において、国民の飢えと苦しみを以て政府を屈服させるために、一方的な強制手段が未だに適用されていることは、考えられないことでもあります。現在の世界情勢において、いかなる国も自国の政治、経済、社会システムを自由に決定する権利を行使するために、迫害と制裁を受けて、追いつめられることがあってはならないことです。

例えば、「主要な麻薬輸送国または違法薬物生産国リスト」にボリビアを加えられたことは、一部の国の上記のような一方的な行動の一例であります。

ボリビア多民族国は、麻薬密売との闘いにおいて主権的な政策を進めており、重要な成果をあげながら、この世界的な惨劇との闘いを強化し続けるための自国政府の関与をここで再確認いたします。

しかしながら、アメリカ合衆国を中心に繰り広げられて来た麻薬戦争



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



が失敗したことは明らかであります。もともと、主要な消費国の一つとなってしまうこの国では、前政権時代にその領土内で麻薬の過剰摂取または麻薬中毒により 10 万人以上の死者が犠牲となったことから、当国の政策変更について詳細な分析を実行することが急務であると思われまます。

さらに、一方的な措置の適用のもう一つの明確な一例としては、キューバに対する非人道的で犯罪的ともいふべき商業・金融封鎖であります。これは何百万人もの市民の生命を危険にさらしています。このような措置を維持するのみならず、さらにこの国をテロ支援国リストに加えたことは、人道に対する犯罪であると同時に、毎年この総会で多数決により決定されたことが、特定の国によって遵守されないということを示す残念な例でもあり、我々はこれを真剣に考えるべきであります。

最後に、総会議長 殿

14. 国際連合憲章と多国間主義の原則の完全な有効性を保証すること。

もしも、我々が国際社会として直面している大きな問題を克服することができなければ、我々の国民を大惨事へと導くことになるでしょう。今日、我々はこれまで以上に、国連憲章、国際法、そしてその国際機関の有効性を示すべき責任を負っています。



ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA (ボリビア多民族国)



資本主義の野望の結果として、地球が今直面している多方向の危機は、克服されるどころか、緊急の対策がとられなければ、さらに悪化することとなるでしょう。

多国間主義を強化することによってのみ、この危機の解決に向けてより大きな対話と協力を実現することができるのです。多国間主義を真に活性化して再生させることは、国際法の有効性と社会正義を伴う平和の維持を再確立し、脆弱な国際秩序を多元的かつ強固なものに再構築することを可能にするでしょう。

ボリビア多民族国は、2006 年以來の我が国の民主文化革命の経験に基づき、現在の世界構造の分極化を克服し、人類と地球を危険にさらす目まぐるしく危険で限度のない消費主義競争へと我々を導いた資本主義秩序を克服し、むしろ「よく生きる」そして「人民の外交」の原則に基づいて、すべての人にとってより公正で包括的にして公平な世界を築くことに、我々は前向きに楽観的であって、希望を持っています。

ありがとうございました。